

「…気持ちよかった？田中さん」

「なっ!？」

杏奈ちゃんは顔を赤くして睨んできた。

「ふーん」

「な、なんですかその顔……!ば、馬鹿にしないでください!私は……その、全然……!全然……!」

「めっちゃめっちゃ気持ちよかった、ってこと?」

「~~~~っ!そ、それは……!その……!青木さんが……!」

杏奈ちゃんは涙を浮かべながら俺をキッと睨みつけた。

「青木さんが!青木さんがいけないんだもん!青木さんが、私のこと……エッチな目で見るから……!青木さんが、私のこと……お、犯したりするから……!青木さんの、せ、責任……取ってもらうんだもん……!」

「……」

あ、ヤバイ。勃ってきた。俺は杏奈ちゃんの腕を掴んだ。

「きゃあっ!?!ちよ、ちよっど……!?!どこ触ってるんですか!」

「…昨日の部屋って」